



代々木八幡宮を参拝して

私は毎年複数回にわたって時間を見つけては代々木八幡宮を参拝させていただいている。もともとは、戦前、私の祖父が山形県酒田市から東京都目黒区に移り住み、その後、父が出生して東京大空襲によつて家が焼失し、酒田市に疎開するまでの間、高橋家は目黒区にあつたことを知り、東京の地理に疎かつた私が勝手に氏神様を代々木八幡宮と定めたことに起因する。細かく調べれば瀧泉寺(目黒不動尊)なのかもしないが、今まで参拝し続けてきたことから、北海道に戻つて来たにもかかわらず、自分の中では氏神様は代々木八幡宮と定め、神棚の右端には毎年代々木八幡宮から頂いたお札をお供えしている。

京都奈良に行く機会がなかつた私が大学時代、足しげく鎌倉に通つていたことを思うとさらに感慨深いものがある。

源氏の氏神様は八幡様（応神天皇）であることを考へると、暗殺されたとはいえ、代々木野に鶴岡八幡宮を勧請して八幡宮を創始したというのも意味が深いと思う。源頼朝が急死したことから2代鎌倉殿（征夷大將軍）となつた頼家が頼朝の乳母である比企尼の養子である比企能員の屋敷で産まれたこと、比企能員の娘が頼家の嫡子である一幡を産んだことから頼家の外戚として権勢を振るつたとされている。墨管抄によれば、大江広元の屋敷で病に伏した頼家は出家をして家督を嫡子一幡に譲ろうとしたが、それでは外戚である比企能員の権力がさらに大きくなると考えた北条時政が比企能員を屋敷に呼び出して殺害。さらに、小御所にいた一幡をも殺害しようとしたとされている。この点、後年、北条氏側で編纂したとされている吾妻鏡では、建仁3年（1203年）、いまだ頼家が亡くなつていな段階で、北条時政が8月

27日、関東28ヶ国の地頭職と日本國総守護職を一幡に、関西38ヶ国 の地頭職を源実朝に相続させることを内容とする頼家遺領分与を 決定した。これに反発した比企能員が頼家に頼み込み、北条時政迫 討令を出させようとしたところ、 先手を打った北条時政に攻め滅ぼされたと書かれている。ところが、 同じく吾妻鏡の中には、同年9月 7日には、いまだ頼家が存命中であ るにもかかわらず、同年9月1日 に頼家が病死した旨の報告が京都 に届いていたとされている。もし、こ の報告の知らせが本当に9月7日 に京都の朝廷にもたらされている のであれば、当時の道路整備もお ぼつかない鎌倉から京都に行くの に必要な日数を考えると、9月1 日には、すでに頼家の死亡と比企 能員の殺害が北条時政において決 定されていたことを物語ることと なる。

そこで、頼家毒殺説なる見解も 出てくるのであるが、いずれにして も、北条政子は実子である頼家ば かりか、孫である一幡をも北条一族 を通じて殺害されたのであるから、

ちなみに、出羽（山形）高橋家はこの大江広元を祖としており、私の高橋家の家紋は出羽高橋家の家紋と同じである。家紋が同じだからといって自らが出羽高橋家の確かな末裔だと証明できるものではないが、万が一にもその血液の一滴でもつながっているのであれば、私が代々木八幡宮を参拝し続けることは、北条時政に協力して比企能員を滅ぼした大江広元の末裔としての贖罪にもつながるのかもしれない。また、この頬家の菩提を弔つた代々木八幡宮を通じて御利益を頂くことには心から感謝しなければならないことになる。